

立山通学合宿 ～自学・自主・自立の心を育てるあしくらじゅく～

1 ねらい

- 規則正しい生活をするこゝで、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、自主学習の習慣化を図る。
- 自分のことは自分で行うこゝで、自主性や自立心を育てる。
- きまりを守り、仲間を思いやりながら集団で生活するこゝで、社会性や協調性を育てる。

2 期 日

- ① 平成29年11月 5日（日）～11月11日（土）6泊7日
- ② 平成29年11月12日（日）～11月18日（土）6泊7日

3 対 象

- ① 釜ヶ淵小、立山小、立山北部小の4～6年児童
- ② 高野小、立山中央小、日中上野小、利田小の4～6年児童

4 参加人数／募集人数

- ① 31名（男子8名、女子23名）／40名
- ② 78名（男子35名、女子43名）／40名

5 講師・スタッフ

- | | | | |
|-----------|----|---------------|----|
| 富山大学天文同好会 | 5名 | 魚津市〔魚津水族館〕職員 | 2名 |
| 法人ボランティア | 8名 | 国立立山青少年自然の家職員 | |

6 後援・協力

- 後援：立山町教育委員会
 協力：富山大学天文同好会（「立山タイム」星についての学習）
 魚津市〔魚津水族館〕（「立山タイム」水辺の生物についての学習）
 日の出屋製菓産業立山本社（子供たちのおやつ提供）
 株式会社たてやま（送迎バス運行）

7 日 程

| | 午 前 | | 午 後 | | 夜 |
|---------------------------------|----------------|--|------------------|-----|---|
| ① 11/5 ② 11/12 | | | 開校式 オリエンテーション | | ○みんなとなかよくなるう<アイスブレイク> ○学校の準備 ○班タイム ○就寝 |
| ① 11/6 ～10 ② 11/12 ～17 | 起床 洗面 朝食 | 登下校は自然の家のバスや車で送迎 学校での生活 ※11月7日は、小学校が休業日。 | | | ○夕食 ○洗濯 ○入浴 ○学習タイム（約1時間） ○立山タイム（約1時間） ・星について学ぼう（11/6 11/13） ・水辺の生物を学ぼう（11/8 11/15） ・みんなとの絆を深めよう <企画、準備 11/7. 9. 10. 14. 16. 17> <お楽しみ集会 11/11 11/18> ○班タイム ○就寝 |
| ① 11/11 ② 11/18 | 起床 洗面 朝食 | お楽しみ 集会 | 焼きそば作 りをしよう | 閉校式 | |

8 参加者からの感想

- 家の生活でも自立できるようにしたいと思った。
- 物や施設を使うときのマナー、いろいろな人への感謝の気持ちを忘れずに頑張りたい。
- 自分が家でゆっくり過ごさせているのは、洗濯などの家事を家の人がしてくれているからだと思った。親のありがたみを感じた。
- 生活の中に自分でできることがたくさんあることに気づいた。
- 時間通りに行動したり、見通しをもって洗濯や宿題を行ったり、時間の使い方がうまくなった。
- 友達が増えてよかった。中学校では安心して過ごすことができるのではないかと思った。
- 楽しいことや悲しいことを仲間と共有することができた。協力して7日間過ごせたからだと思う。これからの生活に生かしたい。

9 成果

- 毎日の引き継ぎ事項を一覧にし、日報のように書きためていった。担当者が交代した時にも、前日からの様子を引き継ぐことができ、指導に役立てることができた。
- 指導支援として学生ボランティアを登用したが、1日に最低2名を確保できるようにした。特に学習指導の面では、子供たちが親しみやすく、質問等が活発にでて、学習効率のアップにつながった。また、生活面でも、近い距離で長い時間関わりをもつことができ、様々な面での支援ができた。
- 洗濯をするときは、時間を指導者側から提示せず、決められた時間枠の中で、自ら時間を設定して行った。入浴、宿題、洗濯をどの順番で、時間をどう配分するかを決めて進めることで、見通しをもったり、自主的な行動につなげたりすることができた。
- 魚津水族館から講師を招いて講義をいただいた。水辺の生き物について、クイズを交えた話や生き物とのふれあいを取り入れた内容で、依頼の趣旨を汲んだ内容となっており、好評であった。
- 「立山タイム」では、最終日にお楽しみ集会を設定し、集会に向けての準備をすすめた。「絆をふかめる集会」とテーマを提示し、子供たちが、自分の言葉でテーマに近づくための思いを出し合った。自分たちの思いが反映された集会のために自主的な活動を引き出すことができた。
- 入浴時間を早めたことで、ゆとりが生まれ、自由に使える時間を有効に生かすことができた。

10 今後の課題

- 振り返りカードや観察などから、個人の様子をつぶさに捉え、必要があれば面談を行う等、一人ひとりへの配慮が細やかに行えるような、支援の在り方を工夫していく必要が考えられる。
- 長期間の合宿となるので、指導事項のポイントを厳選し、視覚化するなど、子供が見通しをもって活動に取り組めるよう配慮する必要がある。
- ボランティアの中には、具体的な行動についての理解が不十分なため、支援に戸惑う場面が見られた。事前の研修を行うなど、見通しをもって参加できる配慮があればよい。



自主的に学習します



初めて知った水生生物のひみつ



意外と大変な洗濯



みんなでアイデアを出し合います



おいしい焼きそばを作ろう